

新潟医療センターニュース

第41号

発行 新潟県厚生連労働組合新潟支部
発行責任者 荻澤 仁

退院後の不安を解消

家庭復帰を支援する病棟紹介

新潟医療センターでは、心臓血管センター、緩和ケア病棟など、特徴的な病棟を有しております。今回は、脳血管障害・大腿骨頸部骨折などの治療後、家庭復帰への支援を行う回復期リハビリテーション病棟をご紹介します。

患者さんの心身機能の回復や食事、排泄、歩行や車椅子の移動などの能力向上による寝たきりの防止と、可能な限りの家庭や社会への復帰を目的として取り組んでいます。

回復期リハビリテーション病棟は入院できる期間に日数制限があります。国が定めた対象疾患により六十日から二八〇日の入院日数制限が設けられています。脳血管障害の発症や大腿部頸



回復期リハビリテーション病棟とは

部骨折の手術など急性期の治療を受けて、一〜二ヶ月以降の時期に集中的なリハビリテーションを行うことが最も効果的といわれています。



病棟・リハビリスタッフ

より質の高い生活を

目指して 当院の回復期リハビリテーション病棟はB棟四階にあり、ベッド数は五十四床です。主に整形外科、神経内科、脳神経外科などの患者さんが入院されています。患者さんの状態について医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護士、医療相談員とともに相談し、リハビリテーションプログラムを作成し、これに基づきリハビリテーションサービスを提供しています。また認知症の方へも積極的に関わりを持ち対応しています。より質の高い生活を送って頂くために病棟スタッフ、リハビリスタッフが連携を取り、患者さんに適したケアやリハビリテーションサービスを提供できるよう努めています。

透析装置



全面リニューアル完了

腎臓の機能を失った人は、腎臓機能を代行する透析治療を生涯にわたって受ける必要があります。患者さんの多くは一週間に三回の血液透析治療を受けています。当院では三十名以上の患者さんが通院されています。四〜五年間の血液透析実施回数は四五〇〇回以上になります。これほど頻回な透析治療を安全、確実に、そして効果的に実施するのが我々透析室スタッフと透析監視装置の役目です。この両者がうまく協力して初めて透析治療のクオリティが保たれます。透析監視装置は医療機器の中

でも稼働時間が長く、その性能維持には定期的なメンテナンスと機器更新が欠かせません。当院の透析監視装置も機器更新スケジュールに則り、三年ほど掛けてほぼ全面リニューアルされました。その特長は、より安全性と信頼性を高めた事、透析液の清浄化に充分配慮した事、新しい透析治療モードに対応可能である事などでしょうか。「器械だけ良くなったね」と言われないように、透析室スタッフもよりレベルアップして皆様のお役に立てるよう努力します。

臨床工学技士 島 健二

患者・家族のみなさんは、退院するに当たり、様々な不安を抱えておられます。病棟生活では、退院後の生活環境に合わせ、退院後に安全に生活が送れるよう勧められています。また、ご家族への介助方法（食事・排泄・入浴等）の指導も行っています。必要に応じ、ケアマネージャーを含めた担当者会議や家屋調査に伺い、退院後の生活環境や福祉サービスの調整を行うこともあります。このように患者・家

族のみなさんがより安心して退院ができるようスタッフ一同頑張っています。

作業療法士 佐藤 修司



リハビリテーションの様子 (右端：作業療法士佐藤さん)

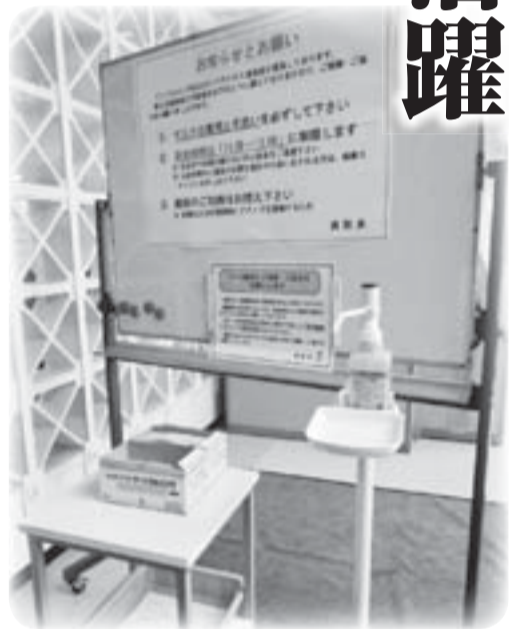
(裏面もご覧ください)

院内感染制御チームの活躍

ノロウイルスの総括

昨年末、寒さが増すにつれ、全国的にノロウイルスの感染が話題となつてから、当院でもノロウイルスに感染した患者さんが少しずつ出てまいりました。来院される皆様にもマスク着用・消毒の徹底の協力をお願いするなどの感染対策に追われました。感染が終息した今、院内感染について総括致します。

ノロウイルス感染症の症状は下痢と嘔水様の嘔吐・発熱などです。そしてなんといつでも怖いのが、その感染力です。何も対策を講じなければ瞬く間に複数の患者さんは勿論のこと、スタッフから面会にこられた方々にまで感染してしまいます。その感染



病院探索

産婦人科編

只今工事の真っ最中
ご迷惑をおかけしております



「ガンガンガン、ウィーン、ズゴゴゴゴ...」

新しい年が明けて一カ月余り。お正月気分も抜け、静かに雪が舞うこの時期に、新潟医療センターの一角からいったい何事かと思うようなすごい音が聞こえてきます。実はこれ、当院でお産を行うための病棟改修工事で発生する音です。

当院は来年度から産科を再開

することを決定しました。コンセプトは「すべての女性に安心して入院いただける環境づくり」です。医師は勿論のこと、病棟スタッフは全員が女性で構成され、なんでも相談できる環境を目指します。

当院は、前身である新潟こばり病院時代を含めてもう六年もお産から遠ざかっていきましたが、この四月から再開できるように急ピッチで工事を進めているというわけです。そのため、特に現在入院している患者さんには日々大変なご迷惑をおかけしていると思えます。大変申し訳なく存じますが、何卒ご理解をお願いいたします。

(記事／菲澤)

を防ぐためにICT(感染制御チーム)のメンバーと病院スタッフとともに活動してきました。

ICTの活動内容は院内を巡回し感染している患者さんの把握。院内の環境をチェック、職員に感染を広げないための情報を提供。消毒薬などの設置・ポスターの掲示など様々です。それでも感染している患者さんは増えてしまい、正月休み中でもICTメンバーで交替し活動の手を休めることはありませんでした。

今、全国的にも当院でもノロウイルスが終息に向かっていますが、これからは、インフルエンザも流行ってきます。気を緩めることなく院内スタッフ一丸となり対応していきたいと思えます。

ICTメンバー

B2病棟看護師 桑原 正祐

厄払い



こばり園

職員神主大奮闘

病院に併設する介護老人保健施設「こばり園」では、季節柄にあつた様々な行事が開催されています。入所されている方や通所されている方が同じフロアに顔を合わせ、職員企画による楽しい催しが披露されます。

「大吉」が出たときには、巫女の舞が披露されました。こばり園の厄がすべて払われ、今年一年がスタート致しました。皆さんお元気で、素敵な笑顔に包まれる園でありますように...。

(記事／大橋)



おみくじ「大吉」を祝う巫女の舞

編集後記

今年の冬も大雪かと思われましたが、今のところ新潟市内では交通機関の乱れも多くはありませんね。とはいえ寒い毎日、私は鍋料理で温まっています。シメのラーメンは焼きそば麵を入れるのが伸びなくてお勧めです。春になったらお花見しながら、お団子とパーベキューで盛り上がりたいですね。

(吉川)



編集委員 片野 礼子 下妻 康子 佐藤 修司 友田 理 大橋 利弘
小柳 良明 阿部 真由美 吉川 博子 菲澤 仁 佐藤 美穂